

赤い靴通信 442号

先月号で紹介しましたヨコハマグランドインターコンチネンタルホテルのクリスマスキャロル2023は24日、25日の2日間、4回の演奏にて、ホテル創業・1999年より続く唯一の催しに相応しい天使の歌声を多くの方にお届けすることができました。そして、大晦日の「よこはまメルヘン」童謡を歌い継ごうのイベントは、赤い靴はいてた女の子像誕生の翌年・1980年から続く横浜の風物詩です。今年は横浜市主催の「ヨルノヨ」のイベント期間と重なり、山下公園界隈は光の演出で彩られ、大勢の人が女の子像の周辺に集まりました。「赤い靴」の童謡に始まり10数曲を歌い、中間で除夜の汽笛、新年を祝う花火の打ち上げに歓声を上げ、新年のあいさつを交わしたり、歌と共に顔見知りの方、初めて会う方、毎年の運営スタッフの皆さんと30分間を楽しく過ごすことが慣わしになって44年が経ちました。少々その長さに驚きますが、これからも次世代に繋がっていくことを願っています。

さて、新年を迎えた元日の夕刻、石川県能登に最大震度7の地震が発生し、日本列島のお正月は一変いたしました。また、翌日・2日の日没後、羽田空港の滑走路で日本航空の旅客機と被災地に届ける支援物資を積んだ海上保安庁の航空機が衝突、炎上のニュースが飛び込んできました。何という新年の幕開けでしょうか。能登半島地震の被災状況は時が経つと共に広がっています。この寒空にもどかしいのですが、今直ぐできることのご支援とこれ以上被災者が増えないよう祈るばかりです。2018年の横浜市民ミュージカル「アキラの肖像」は横浜に水道が引かれて130年を記念した壮大な作品でしたが、横浜水道局には大変お世話になりました。水が人々の元に届くまでの大変さを知る機会にもなったミュージカルでしたが、今回の能登被災地に横浜水道局の皆さんが馳せ参じ支援活動をされていると報道されています。ミュージカルに出演された市川さんも現地でも2月初めまで活動されると聞いています。プロの仕事の重みを感じます。今年の市民ミュージカルは「象の鼻のミケ」です。赤い靴ジュニアコーラスが「ハローよこはま」で出演した辺りで展開する猫の物語です。象の鼻は幕末に造られた波止場で見ると象の鼻のような形していることからそう呼ばれるようになりました。大さん橋の付け根から弓なりに海に突き出た防波堤です。大分前になりますが、象の鼻辺りから東京湾を臨む海中に金塊が沈んでいてその場所を私が知っているのとこの東京新聞に採り上げられた事があります。裏面にその記事をコピーいたしましたのでお読み頂けましたら幸いです。その頃、夢があるという話題となりました。詩人の小黒恵子先生は「ヤンコの綱引き」の詩を書き、作曲を高木東六先生に依頼され、赤い靴ジュニアコーラスが歌い、山下公園で綱引きが行われた様子を写しているエッセイがありましたのでご紹介いたします。

『横浜の公園通りの銀杏並木の黄葉が美しい日曜日、私は久しぶりで山下公園に行った。その日、赤い靴はいてた女の子の像が15歳の誕生日を迎え、像の前で同じく15回目の赤い靴児童文化大賞の受



「クリスマスキャロル 2024」風景 映像提供：長崎 幸 氏
ヨコハマ グランドインターコンチネンタルホテルにて



「よこはまメルヘン 2024」風景
赤い靴はいてた女の子像を囲んで新年を迎えました



「象の鼻のミケ 2024」稽古風景
12月より稽古がスタートしました！

今後のスケジュール 2024年

<p>★3/7(木) 16:00~ 「中区自治会町内会感謝会」 場所：ロイヤルホール・ヨコハマ 内容：横浜市歌斉唱 出演：横浜ローゼス ※詳細は後日</p>
<p>★5月5日(日) 「こどもの日コンサート 2024」 ～オーケストラの魔法で冒険へ！～ 場所：横浜みなとみらいホール 大ホール 時間：①13:00 開演 ②15:30 開演 出演：神奈フィル、赤い靴ジュニア コーラス、横浜少年少女合唱団 ※詳細は後日</p>
<p>★5/19(日) 横浜市民ミュージカル「象の鼻のミケ 2024」 場所：紅葉坂ホール ※詳細は後日</p>
<p>★7/7(日) 午後 「第37期 赤い靴ジュニアコーラス 定期演奏会 & 高木東六先生誕 120周年 記念コンサート」 場所：杉田劇場 出演：赤い靴ジュニアコーラス、ザ・シク クチャーズ横浜、横浜★男声合唱団、 ※詳細は後日</p>
<p>★7/28(日) 「第18回中区ダンスフェスティバル 2024」 場所：関内ホール 大ホール ※詳細は後日</p>

賞式があった。そのあと、子供たちの恒例のヤンコの綱引きがあつて、大人たちを笑わせ楽しませてくれた。綱引きの時、赤い靴ジュニアコーラスによって、ヤンコの綱引きの合唱が楽しさとにぎやかさを一層増していた。

「ヤンコの綱引き」の由来は、エルドラドの時代に中国の金持ちが船を仕立ててアメリカ西海岸に一攫千金の夢見て金鉱探しに遠征し、その帰途は水と食料調達のため横浜に寄港したそう。その時、船火事を起こして金塊もろとも、海の藻くずと消え去った船があつた。後日、入札にかけられヤンコと言う人が落札し、大掛かりな引き上げ作業して大成金になったそう。そのヤンコにあやかろうと、浜辺の村人たちが船のロープで綱引きをしたということだ。

この話を「赤い靴記念文化事業団」の松永春団長から伺い私は早速、作詞して、高木東六先生の合唱組曲「港横浜若いカモメたち」の中の1曲となった。人々の喜びや悲しみを包んで、港や山下公園周辺や歴史的建造物、そしてベイブリッジや近代的ビルが、港の風景になじんで美しい。かもめや鳩の乱舞がひととき美しく印象的だった。

※神奈川新聞・1994(平成6)年11月27日・サンデーブレイクに掲載された「ヤンコの綱引き」詩人・童話作家 小黒恵子先生のエッセイより

私にとって、山下公園、象の鼻パーク、港の見える丘公園は限りなく物語が生まれる大好きな場所です。今年も左のスケジュールの内容で多くの方に夢を配り続けたいと思っております。どうぞ楽しんで頂けたら嬉しいです。

令和5年12月31日付(令和6年1月15日発行) 団長 松永 春



ソーイヤッソイヤッ ソーイヤッソイヤッ
ヤンコの綱引き ソーイヤッソイヤッ

音楽之友社
「若いかもめたち」より

